参考資料４
令和２年７月 31 日
地球温暖化対策推進懇談会
検討部会
環境政策課

ＣＯ２排出量の将来推計

１　エネルギー起源 CO2 排出量の将来推計

（１）　将来シナリオを高位・中位・低位の３パターンで設定し、現状趨勢（BAU : business as usual）排出量を算定する。

（２）　オール東京 62 市区町村共同事業のデータを用いる。（電力排出係数 : 当該年度の基礎排出係数を使用）

（３）　推計を行うのは、計画目標とする「エネルギー起源 CO2」とする。

表１　将来シナリオ３パターンの設定条件

		家庭部門	業務部門	産業部門	運輸部門
高位シナリオ	国のマニュアルに沿った方法を基に算定	活動量（トレンド増加）×排出原単位（一定）	活動量（トレンド増加）×排出原単位（一定）	活動量（一定）×排出原単位（一定）	CO2 排出量（トレンド）
中位シナリオ	現状の排出傾向を踏まえたもの	活動量（トレンド増加）×排出原単位（トレンド減少）	活動量（トレンド増加）×排出原単位（トレンド減少）		
低位シナリオ	業務用課税床面積はトレンドとは異なる傾向で推移すると想定	活動量（トレンド増加）×排出原単位（トレンド減少）	活動量（一定）×排出原単位（トレンド減少）		

（４）　将来推計結果

各シナリオの 2030 年度の CO2 排出量及び 2013 年度比は以下の通り。

①　高位シナリオ : 2,924 千 t-CO2（2013 年度比 7.2%減）

②　中位シナリオ : 2,890 千 t-CO2（2013 年度比 8.3%減）

③　低位シナリオ : 2,634 千 t-CO2（2013 年度比 16.4%減

表２　千代田区におけるエネルギー起源 CO2 排出量の現況と将来推計

	現況（千 t-CO2）					将来推計（千 t-CO2）					
	2013	2014	2015	2016	2017	2030			2050		
	基準年度				最新年度	低位	中位	高位	低位	中位	高位
家庭部門	153	144	144	142	143	165	165	170	164	164	204
業務部門	2, 458	2, 282	2, 188	2, 139	2, 094	2, 068	2, 324	2, 353	1, 789	2, 334	2, 731
運輸部門	504	494	477	427	409	345	345	345	230	230	230
産業部門	35	61	61	56	70	57	57	57	57	57	57
合計	**3, 150**	**2, 980**	**2, 871**	**2, 764**	**2, 716**	**2, 634**	**2, 890**	**2, 924**	**2, 239**	**2, 784**	**3, 222**
2013 年度比					**−13. 8%**	**−16. 4%**	**−8. 3%**	**−7. 2%**	**−28. 9%**	**−11. 6%**	**2. 3%**
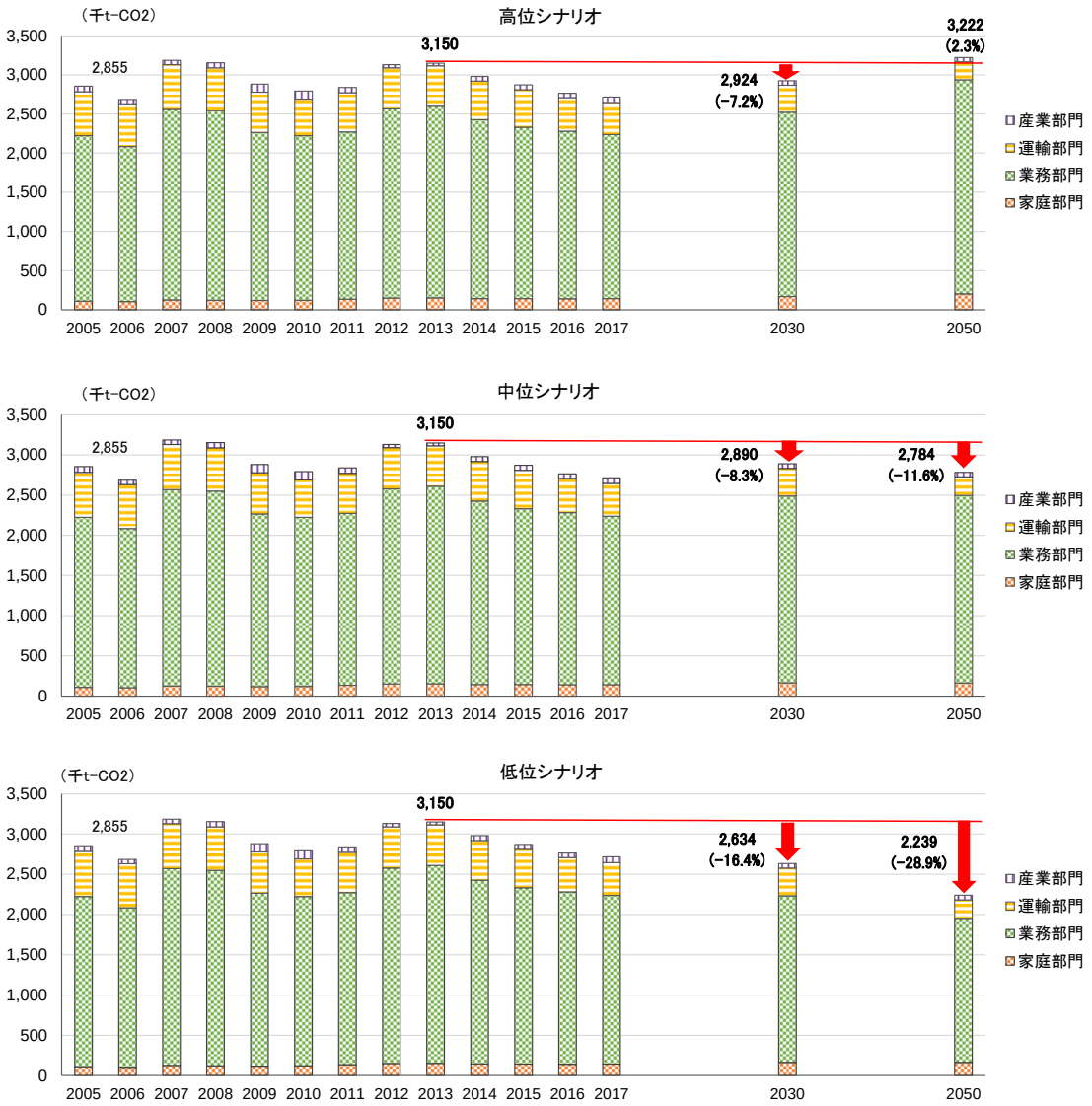
図１　千代田区におけるエネルギー起源 CO2 排出量の将来推計結果